

居場所なく相談できる人いない■家族に頼れない

# コロナ困窮 孤立の若者



会見する今井紀明さん  
＝27日、厚生労働省内

## NPO会見 支援充実求める

「学費や生活費のために、カードローンや消費者金融を使う」「孤独です。コロナで居場所がなく、相談できる人もいない」。コロナ禍で困窮する若者を支援してきた団体が27日、厚生労働省内で会見し、現場からみた若者の実態を報告しました。

不登校や家庭内不和などで孤立する若者を支援するNPO法人「DXP(ディーピー)」が会見しました。料を届けてきました。

相談者は社会人と学生がそれぞれ4割をしめます。悩みは「収入減少」が最も多く、支援を望む人の58%が借金や滞納をかかえる一方、給付金や奨学金を「申請したことがない・わからない」と答えた人は62%でした。90%の人が「家族に頼れない」と回答しています。対面の支援と違い、

女性の相談者が男性より多いのも特徴です。相談者のひとりのAさん(20代)は会見で、虐待のある家から出て通信制高校に通った経験を語りました。「放課後は閉店時間までアルバイトし、生活費を稼いでいました。コロナでシフトが減らされ、将来の目標のための貯金を使い切りました」

理事長の今井紀明さんは、「ロシアによるウクライナ侵攻で食費や電気代が高騰しています。支援を届ける若者の多くはすでに債務超過の状態です。今後極めて大きな影響が出るのでは」と懸念を示しました。

行政には、▽誰でも使える分かりやすい制度▽オンラインでの相談・申請受け付け▽大学生も生活保護を利用できるようにすること――など若年層への支援充実を求めました。